

環状第2号線  
(新虎通り) 全景



# 虎ノ門ヒルズ (環状第二号線新橋・虎ノ門地区第二種市街地再開発事業Ⅲ街区)



## 選評

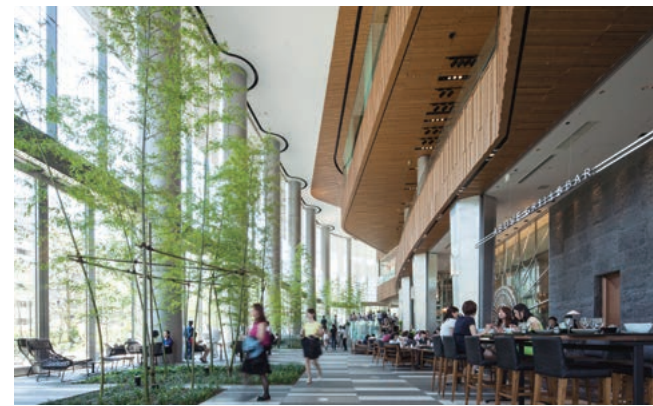
環状第二号線の道路事業と一体となった東京都施行の市街地再開発事業であり、立体道路制度を活用し、超高層ビルが幹線道路の真上に屹立している。商業施設、カフェ、オフィス、住宅、ホテル、緑地や道路を取り込み、新たな付加価値を生み出す超複合積層都市である。足元に豊かな緑広場、アトリウムを設け、愛宕山の緑との繋がり、新虎通りとの連続性、そして周辺地域との共存・共営を図り、虎ノ門地区のまちづくりの核となるよう計画されている。

建築は、低層階に商業施設やカフェ、中層階にオフィス、上層階に住宅・ホテル、足元には豊かな屋外空間を設け、地下から地上にかけて幹線道路が貫通している。この超複合積層都市は、建築と土木を融合させた最先端のエンジニアリングによって支えられている。

タワーフォームは、緩やかな曲

線を描くエアロダイナミクス解析と道路線形により計画している。シャープに切り取った頂部デザイン、積層された機能を包み込むファサード、そして道路を跨ぐ逆テーパーのデザインにより、道路正面のシンボル性を際立たせ、新しいスカイラインを生み出している。低層フォームは、水平ラインを強調し、庇や石壁をアクセントとして展開され、ガラスの箱は来訪者を緑豊かな都市空間へと迎え入れる。

構造は、ファサードを変えずにオフィス階の上階に住宅・ホテルを設置するため、構造切り替え階をトラス構造で構成し、コア内にハイスベックな制震装置を複合的に組み合わせ、高い耐震性を確保している。また二本の柱が一本になるY字状の柱を受ける杭は、通常の場所打ち杭では支えられないため、節付き壁杭を採用し超高層を可能にしている。



上/多目的に利用されるオーバル広場  
下/アトリウム



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計・施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。  
この賞は、1960年にはじまり2017年で58回を数えます。

< 2017年 第58回 BCS賞受賞作品 > 静岡県草薙総合運動場体育館(このはアリーナ) 新宿東宝ビル 太子町新庁舎「太子の環」人がつどう・まちをめぐる・太子がつながる 竹中工道具館新館 敦賀駅交流施設「オルパーク」 駅前広場キャノピー TSURUMIこどもホスピス 東京駅八重洲口開発: グランルーフ、グラントウキョウノースタワー、グラントウキョウサウスタワー、駅前広場 TOTOミュージアム 桐朋学園大学調布キャンパス1号館 としまエコミュニセタウン TOYAMAキラリ 虎ノ門ヒルズ(環状第二号線新橋・虎ノ門地区第二種市街地再開発事業Ⅲ街区) 直島ホール MIZKAN MUSEUM YKK80ビル [特別賞] 日本橋ダイヤビルディング「江戸橋倉庫ビル」の保存・再生 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館



# 建築主

## より 虎ノ門ヒルズエリアで「国際新都心・グローバルビジネスセンター」を形成

「虎ノ門ヒルズ」は、官民連携による都市開発の象徴的なモデル事業であり、当社が理想の街として掲げる多彩な都市機能がコンパクトに集約した「パーティカルガーデンシティ（立体緑園都市）」を具現化したプロジェクトです。「立体道路制度」を活用し、環状第二号線と建物が一体開発され、地上部の「新虎通り」は街の賑わいや活力を生み出す、東京の新たなシンボルストリートとなりました。また、足元に創出した約6,000㎡の

緑溢れる広場では1年を通して様々なイベントが行われ、周辺住民やオフィスワーカーの憩いの場になっています。

森ビルは、グローバルプレイヤーが集まる空間や機会を創出すると共に、新たなビジネスやイノベーションを生み出しながら、虎ノ門ヒルズエリアで「国際新都心・グローバルビジネスセンター」の形成に向けて尽力してまいります。



森ビル株式会社  
設計部建築設計2部部長  
**弓削昌義**  
Masayoshi Yuge

# 設計者

## より

## 都市の新たな核を造る



株式会社日本設計  
第4建築設計群 副群長  
チーフアーキテクト  
**加藤弘治**  
Koji Kato

本プロジェクトは用途の複合に留まらず、土木と建築をも複合した「超複合」のプロジェクトと言えます。10年単位の都市計画と企画段階を経て、基本設計から竣工まで約9年を要し、多くの方々の知恵と技術とご協力を得ながら様々な問題の一つひとつクリアしていきました。

特徴的なタワーデザインは、敷地を貫通する道路の線形が拠り所となっています。また、複雑な動線を立体的に解決し得たのも、道路が地

下から地上までせり上がってくることをポジティブに利用した結果と言えます。

建物を眺め、訪れていただく方々には、デザインと空間の中に、道路という都市機能が組込まれているダイナミズムと自然との調和を感じていただければ幸いです。

そしてこの虎ノ門ヒルズを核として、都市の緑と機能が面的に拡がっていき、新しい都市のかたちが造られていくことを期待します。

# 施工者

## より 難工事を実現させた知恵の結晶とチーム力

森ビル株式会社、株式会社日本設計の方々をはじめ多くの関係者が目指した新しい都市開発を実現するため、施工者として様々な形で挑戦し、完成したプロジェクトでした。

“立体道路が貫通する超高層ビル”を3年という工期で実現するには多くの難問もありましたが、様々なシミュレーションを重ね、多岐にわたる施工プロセスの検証を行い、多くの人の努力によって「最高のカタチ」として実現するこ

とができました。結果として今回の受賞につながり、改めて関係された方に感謝すると共に、チームの一員として協力してくれた協力会社や作業員ともこの賞を共有したいと思います。

このプロジェクト以降大きく発展し続けている虎ノ門エリアに貢献できたことを誇りに思うと同時に、今後も関わり続けたいと考えております。



株式会社大林組  
東京本店  
工事事務所 元所長  
**井上隆夫**  
Takao Inoue



立体道路と高層部の同時施工状況

ホテル客室



設備は、次世代空調システムとして中温冷水製造と大規模蓄熱槽を組み合わせたLOBAS空調熱源システムをオフィスエリアで採用し、省エネルギーに配慮している。またオフィスの照明は、テナント指向型のスマートLED照明システムを導入し、太陽光発電設備は、六階の大庇の上部に約

五〇キロワットの建材一体型太陽光パネルを設置している。建築環境総合性能評価システムCASBEは最高性能Sランクを取得している。施工は、逆打工法を採用し、地上地下工事を同時に進め、立体的な仮設ヤードを計画することで同時施工を実現し、工期の大幅な短縮を実現した。また外装材の搬送

作業効率化のため、取り付け階まで垂直搬送、取り付け箇所まで水平搬送する外装揚重システムを新たに開発し、安全に効率的な施工を実現した。維持管理では、街の運営組織「タウンマネジメント」を立ち上げ、さまざまなイベントを開催し街の賑わいや活性化を図っている。

また非常時に帰宅困難者の受け入れができるよう、カンファレンスやアトリウム、ロビー等を整備し、災害時に必要な資機材の備蓄を行っている。虎ノ門ヒルズは、地域の活性化に寄与し、建築主、設計者、施工者が一体となつてつくり出した質の高い建築・都市として優れた作品である。

【選考委員】  
竹内徹・佐野吉彦・田中隆吉

### 計画概要

建築主：森ビル(株)

設計者：(株)日本設計  
(株)大林組

施工者：(株)大林組

所在地：東京都港区虎ノ門1-23-1~4  
竣工日：2014年5月29日

敷地面積：17,068㎡  
建築面積：9,390㎡  
延床面積：244,360㎡

階数：地上52階、地下5階、塔屋1階  
構造：鉄骨造(一部鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造)